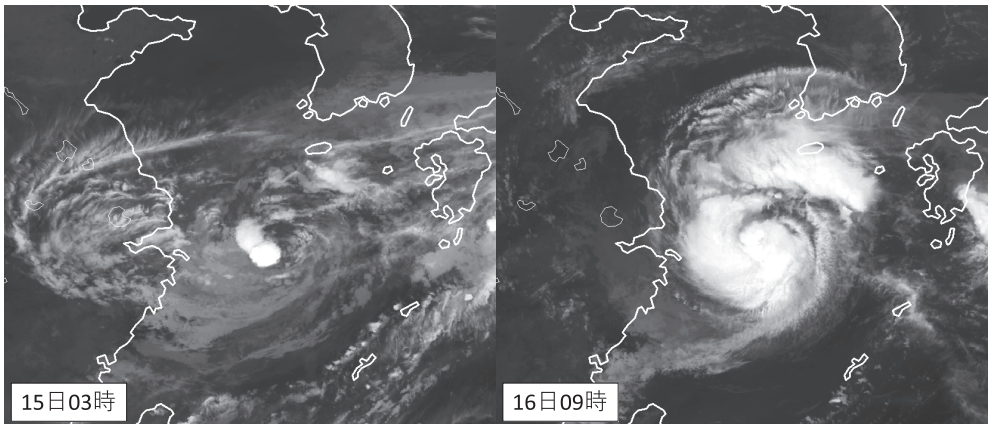
今月のひまわり画像―2021年９月

福岡県に初めて上陸した台風第14号



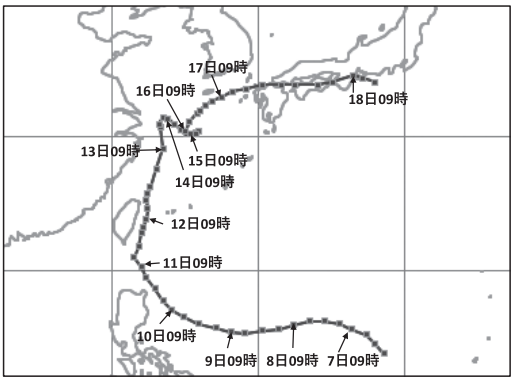
第１図　2021年９月15日03時（日本時間），16日09時の東シナ海付近における赤外画像.

2021年９月６日21時（日本時間）にフィリピンの東で発生した台風第14号は，台湾の東海上を北上し，東シナ海で複雑な動きをした後，東進して17日19時前に福岡県福津市付近に上陸した．福岡県への上陸は，1951年の統計開始以降，初めてとなった．

台風が与那国島の西を非常に強い勢力で北上している12日09時には，中心気圧935hPa，最大風速50m/s であったが，東シナ海で次第に衰弱し，15日03時には中心気圧996hPa，最大風速20m/s まで弱まった．同時刻の赤外画像（第１図左）からも低気圧性循環は見られるものの，発達した対流雲は中心の西側に小規模に発生している程度であった．

台風は14日夜から16日朝にかけて東シナ海でほとんど停滞し，15日15時から再び発達して16日09時には中心気圧990hPa，最大風速25m/s となった．同時刻の赤外画像（第１図右）を見ると，台風の中心に向かって発達した対流雲がバンド状に巻き込まれているのを確認できる．東シナ海の海面水温は北緯30度付近で28～29℃あり，この期間台風は南東進し，より暖かい海域に存在したこと，かつ速度が上がらずほとんど停滞していたことが発達に寄与したと推察される．

台風は上陸するまで勢力を維持し，九州のほぼ全域を風速15m/s 以上の強風域に巻き込んで通過した．最大瞬間風速は，佐賀県佐賀市駅前中央では17日16時過ぎに南の風33.5m/s，長崎県壱岐空港では同日18時前に北の風34.5m/s を記録した．



第２図　台風第14号の経路図.

台風はその後瀬戸内海を経て，18日00時過ぎに松山市付近に再上陸し，四国を通って紀伊半島を東へ進み，同日15時には東海道沖で温帯低気圧へと変わった（第２図）．

この台風により，山陽新幹線の計画運休や九州各地で特急が一部運休するなど，交通機関が大きく乱れ，福岡県や長崎県では停電などの被害が生じた．また，台風が再々上陸した18日06時過ぎには，和歌山県で突風被害が発生した．

（気象庁大気海洋部予報課　河野麻由可）